

坂総合病院第1回倫理委員会 報告

日時：2002年12月21日(土)午後4時-6時

場所：坂総合病院附属成人病クリニック4階会議室

出席：歯科医師1、宗教家1、医師2、事務局3、院長1、

議題：

1. 坂総合病院院長あいさつ(山田 裕)

- ご参加ありがとうございます。坂総合病院として倫理委員会を作る背景となったものは、病院を取り巻く状況が変化していること、川崎協同病院問題など従来では考えられない問題が起きており、日常の臨床倫理が課題になっていることなどがあげられる。いままでは個々の医師が対応することが多かったが一定の基準を作って対応することが求められる時期になっている。外部委員として、ご参加の先生以外に今後、医師会、法律家、友の会などに要請中であるが、まずこのメンバーから出発したい。ぜひ活発な論議をお願いしたい。

2. 各委員の自己紹介(省略)と確認

3. 倫理委員会 規程(案)と運営について討議

a、意見

- 倫理委員会設置のねらいとして、21世紀の病院の位置付けなど提起が必要と思う。病院からの提起がほしい。
- (山田院長)倫理委員会が検討必要と認めたものについて、院内外含めて倫理課題を討議してほしい。われわれが経験則でやっているものについて再検討し、また患者様の権利についても深めたい。この論議をもとにできるだけ地域にも公開して病院の質のアップにつなげ、病院方針に反映できるようにしていきたい。

b、確認事項

- 以下、規程(案)を修正、追加して委員長から次回の倫理委員会に提案する。
- 第3条 審議事項(3) 訴訟、事故にかかわる個別の症例については検討しないということなので修正して提案する。
- 第5条 運営 「公開を原則とする」「その際はプライバシーを保護」と明文化する。
- 「報告」「答申」の用語について統一する。
- 第3条 審議事項(5)を作りあらたに「報告・答申」の公開を入れる。
- 第4条 開催 2ヶ月に1回を原則とし、必要なら中間で開催する。

4. 倫理委員会の課題についてフリーディスカッション

- 終末期医療とか未整理課題多い。川崎協同病院の調査報告でも指摘されている。
- 倫理課題を現場で医師や看護師がどうとらえているかを知った上で自分たちの問題として提起する必要がある。手術、感染、終末期、カルテ開示など。
- まず病院として抱えている課題を出してもらうことから始めたい。
- 医師に対して課題を問い詰めて、再教育することも必要。人間関係を十分作れない医師は再教育・再学習の課題がある。
- 医師の中でなかなか倫理課題は公開の論議になりにくい。古い医師のほうが倫理課題

については教育されていない面がある。医師の人格の根幹を変えるのはなかなか困難である。

- 倫理委員会としての課題論議の順番については、次回委員長から提案したい。
 - 医の倫理は教育では身につけにくい。人生観の確立の中で作られていくものだろう。たとえば教師を反面教師として、大学教授を反面教師として、など。倫理教育を技術論としてとらえるのは危険である。
 - 倫理観は個々人の人生の中で長期間の育成の成果として獲得される。その深さは個々人でまちまちである。今後の取り組みの中で一定レベルまで質のアップをはかりたい。
 - 倫理観の確立は人生観の確立がないとダメだろうか。子供が未熟かということそうではない。「存在そのものがかけがえのない人生」という認識ができるかどうかにかかると。コミュニケーションできない医師、教師の問題も共通している。
 - 倫理委員会の中で議論の共通項を見出し、認識の高まりを作りたい。
- (委員長) 倫理委員会委員には、事前に資料を送付し、読んで考察し、意見を持った上で委員会に参加していただくようにしたい。規程(案)についても事前送付する。議題の整理は事務局でおこない案内する。 委員会として確認した。

5. 次回の開催日程

2003年3月29日(土) 午後4時から6時、成人病クリニック4階にて。

以上